

28B-08

慢性膿皮症の漢方療法

近畿大学 医学部 堺病院皮膚科

○大熊守也

【目的】慢性膿皮症には、抗生剤が思ったより効かず、特に器械的刺激のある部位は難治である。Folliculitis decalvans, dermatitis papillaris capillitii, 殿部膿皮症などは、中年男子に多い、器械的刺激の多い部位、難治などの共通な特徴を有し、いずれも本態は同じ疾患と考えられている。今回5症例に漢方内服とステロイド外用剤を用いて良い結果が得られたので報告する。

【方法】3例の臀部膿皮症、それぞれ、1例の禿髪性毛嚢炎、頭部乳頭状皮膚炎を対象として、十味敗毒湯1日7.5g内服、0.1%硫酸ゲンタマイシン含有0.12%吉草酸ベータメサゾンクリーム外用を行った。効果判定は皮疹をもって行い著効、有効、無効ないしは増悪の3段階であらわした。

【結果】5例中4例で著効、1例で有効であった。

【結論】十味敗毒湯内服、ステロイド外用療法は慢性膿皮症にすぐれた治療である。